

イナバガレージ 単体型 組立説明書

このたびは、イナバガレージ「ガレーディア」をお買い上げくださり誠にありがとうございました。

私たちは、この製品の開発にあたって「良いものを安く」をモットーに、苦心して作り上げました。

どうぞ末永くご愛用いただきますようお願い申し上げます。

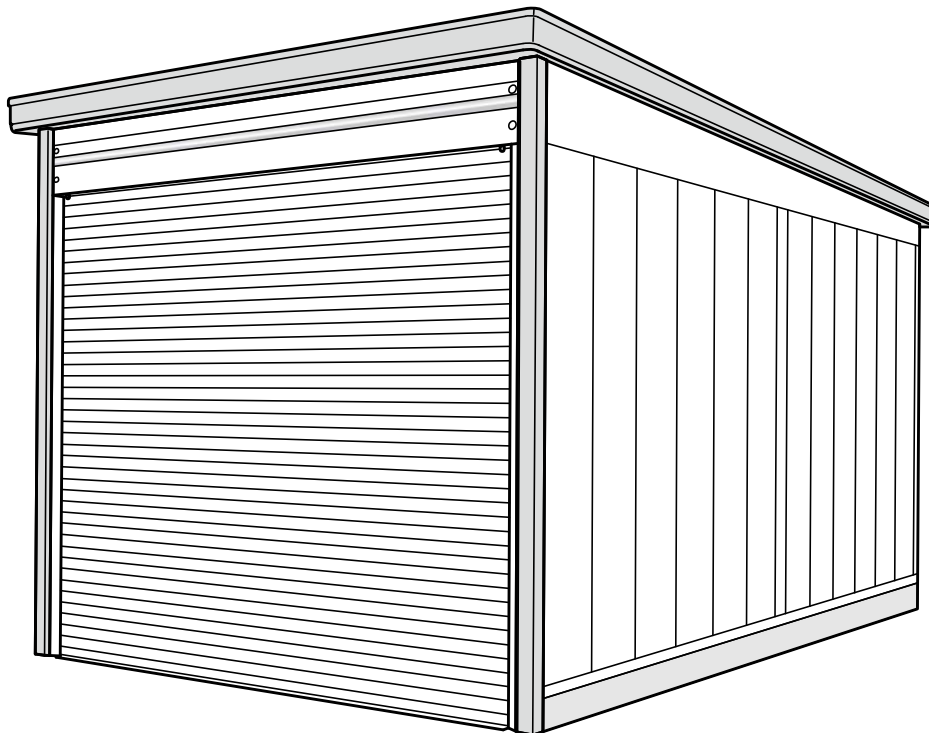
この製品の組み立てについてご説明いたしますので、かならずお読みください。

組立説明書の基礎図・アンカー工事については標準的施工方法とします。

異なる施工を行う場合は、予め当社にご相談ください。

なお、ご使用にあたっての注意については、取扱説明書・製品保証書をお読みください。

※連棟タイプ、組合せタイプを組み立ての場合は、部品箱(追加棟)内の連棟型組立説明書をご覧ください。



組み立てにあたっての注意事項

●設置場所

1. 崖の縁や屋上など、安全の確認の出来ない場所への設置は避けてください。
2. 非常時の避難通路となるような場所には設置しないでください。
3. 家からの雪が直接屋根に落ちてくる場所への設置は避けてください。
4. 家の屋根からまとまった雨水が直接屋根や壁に落ちないように配慮してください。

●組み立て

1. アンカー工事を必ず行なってください。
2. 強風時などの天候の悪い日の組み立ては避けてください。
3. 30kg以上の梱包や部材の運搬・組立は、2人以上で行ってください。
4. ヘルメット・手袋・長袖シャツなどの保護具や脚立等を使用し、安全確認の上作業してください。
5. 組立中は部材の転倒防止のために、つかい棒やロープ等でしっかり固定してください。
6. 組立途中で放置しないでください。



当該機種には、製品及び施工の瑕疵並びにその瑕疵に起因する損害に係る優良住宅部品瑕疵担保責任保険・損害賠償責任保険が付されています。組立説明書等で指示された施工方法を逸脱しない方法で施工を行った者は、上記保険の被保険者として、施工に関する瑕疵担保責任及び施工の瑕疵に起因する損害賠償責任を負う際には保険金の請求ができます。詳細は、当社及び一般財団法人ベターリビングのホームページをご参照ください。

(<http://www.inaba-ss.co.jp/> または <http://www.cbl.or.jp/>)

組立順序のご説明

組立にあたって、部品の共通性・互換性を持たせるために、取付穴が余分にあげてあります。相手に穴のない所はボルト締めはありません。各取付穴は、組立を容易にするために余裕を持たせてあります。片寄った締め方をすると、部品が入らなかったり穴が合わない場合がありますので、この場合はボルトをゆるめ調整してください。電動工具を使用する際は、ネジ山が破損し空回りするおそれがありますので、締めすぎにご注意ください。

1. 基礎施工

入口部の基礎高さが、地盤面(G.L)かつ土間面(F.L)のどちらからも**50~200mm(高基礎仕様の場合:200~500mm)**の範囲に納まるように、水盛り・遣り方にしながら根伐・砂利等で地固めをし、下図のように基礎を作ります。

※この説明書における基礎は、積雪荷重1200N/m²(一般型)と、4500N/m²(豪雪型)の標準施工図面です。

設置場所や、地域の実情にあった基礎施工を行なってください。

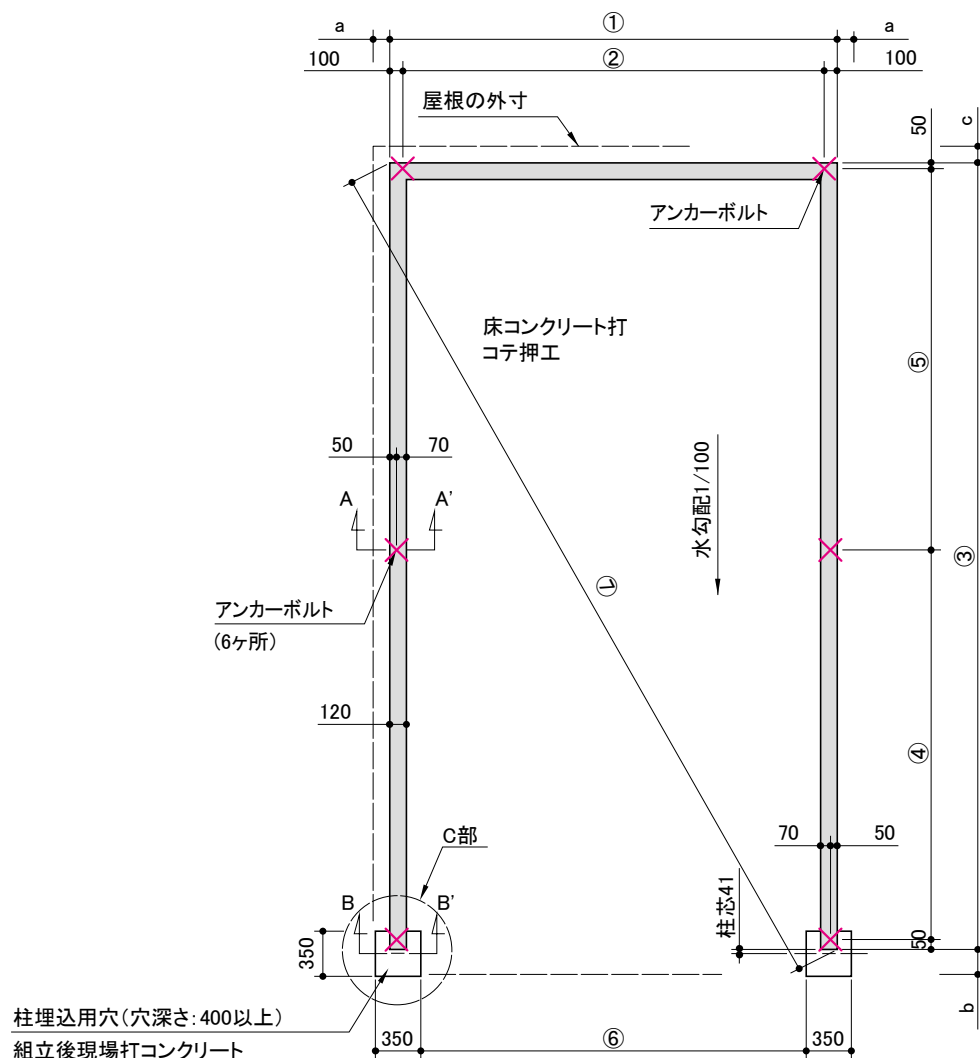
※軟弱な地盤や寒冷地等は地域の実情に合わせた基礎にしてください。

安全確保のため、転倒防止工事には十分注意してください。

■基礎施工図[単位:mm]

※a, b, cは屋根の出幅です。

a=70, b=221, c=130



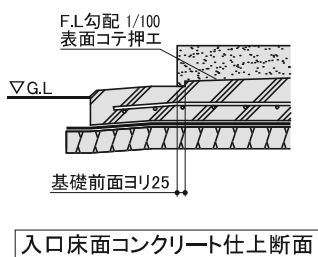
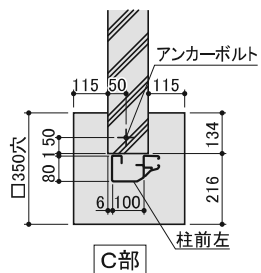
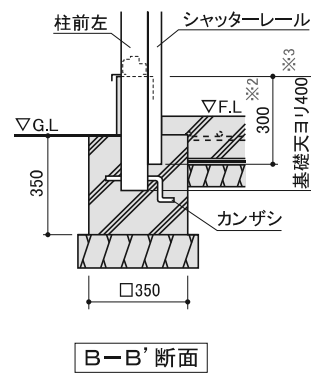
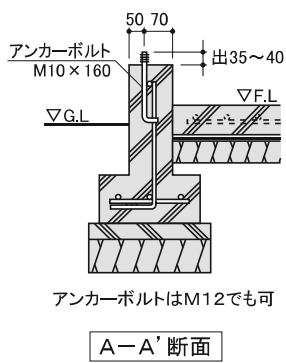
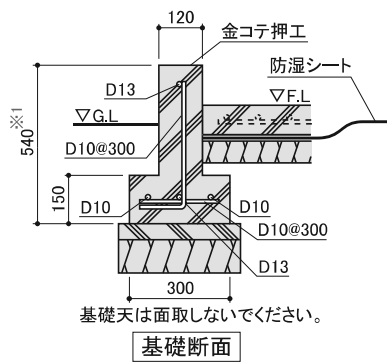
△ 注意
アンカーボルトは布基礎芯ではありません。

×・・・アンカーボルト位置を示す(全6ヶ所)

■基礎寸法一覽[單位:mm]

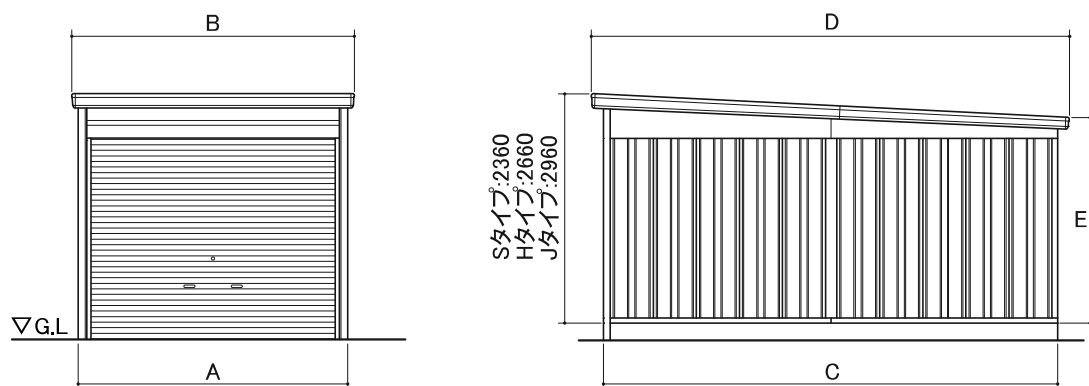
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
GRN-2142型	2150	1950	4204	2597	1507	1680	4721.9
GRN-2642型	2650	2450				2180	4969.5
GRN-3142型	3150	2950				2680	5253.2
GRN-3642型	3650	3450				3180	5567.4
GRN-2147型	2150	1950	4704		2007	1680	5172.1
GRN-2647型	2650	2450				2180	5399.1
GRN-3147型	3150	2950				2680	5661.3
GRN-3647型	3650	3450				3180	5954.0
GRN-2652型	2650	2450	5204	3097	2507	2180	5839.9
GRN-3152型	3150	2950				2680	6083.1
GRN-3652型	3650	3450				3180	6356.4
GRN-2657型	2650	2450	5704			2180	6289.5
GRN-3157型	3150	2950				2680	6516.0
GRN-3657型	3650	3450			3180	6771.9	
GRN-2662型	2650	2450	6204		3007	2180	6746.3
GRN-3162型	3150	2950				2680	6957.9
GRN-3662型	3650	3450		3180		7198.1	

■ 基礎断面図 [単位: mm]



※1～3: 高基礎仕様の場合、寸法が変わります。
 ※1 : 基礎高さに応じて変更してください。
 ※2 : 300→600
 ※3 : 400→700

■外形寸法一覧

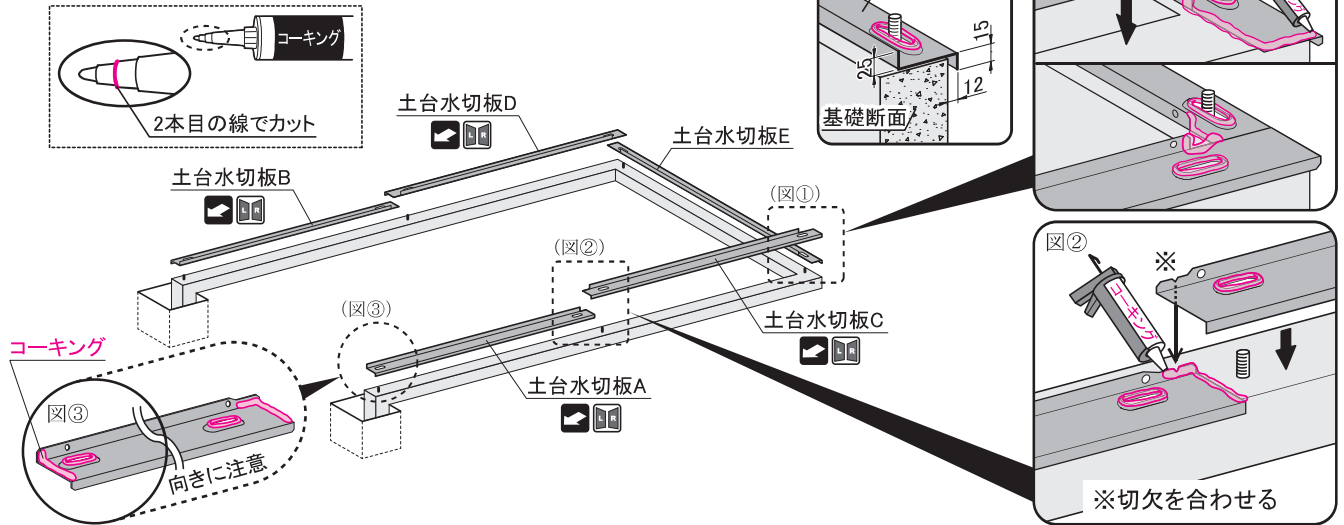


機 種	A	B	C	D	E	機 種	A	B	C	D	E		
GRN-2142S	2130	2290	4275	4555	2138	GRN-2657S	2630	2790	5775	6055	2108		
GRN-2142H					2438	GRN-2657H					2408		
GRN-2642S	2630	2790			2138	GRN-2657J					2708		
GRN-2642H					2438	GRN-3157S	2108						
GRN-3142S	3130	3290			2138	GRN-3157H	2408						
GRN-3142H					2438	GRN-3157J	2708						
GRN-3642S	3630	3790			2138	GRN-3657S	3630	3790			2108		
GRN-3642H					2438	GRN-3657H					2408		
GRN-2147S	2130	2290	4775	5055	2108	GRN-3657J			6275	6555	2708		
GRN-2147H					2408	GRN-2662S	2084						
GRN-2647S	2630	2790			2108	GRN-2662H	2384						
GRN-2647H					2408	GRN-2662J	2684						
GRN-3147S	3130	3290			2108	GRN-3162S	3130	3290			2084		
GRN-3147H					2408	GRN-3162H					2384		
GRN-3647S	3630	3790			2108	GRN-3162J					2684		
GRN-3647H					2408	GRN-3662S	3630	3790			2084		
GRN-2652S	2630	2790	5275	5555	2084	GRN-3662H					2384		
GRN-2652H					2384	GRN-3662J					2684		
GRN-3152S	3130	3290			2084	[単位: mm]							
GRN-3152H					2384								
GRN-3652S	3630	3790			2084								
GRN-3652H					2384								

2. 土台水切板の取付

土台水切板を基礎に乗せ、土台水切板の長丸部と重なり部に右図のようにコーキングします。

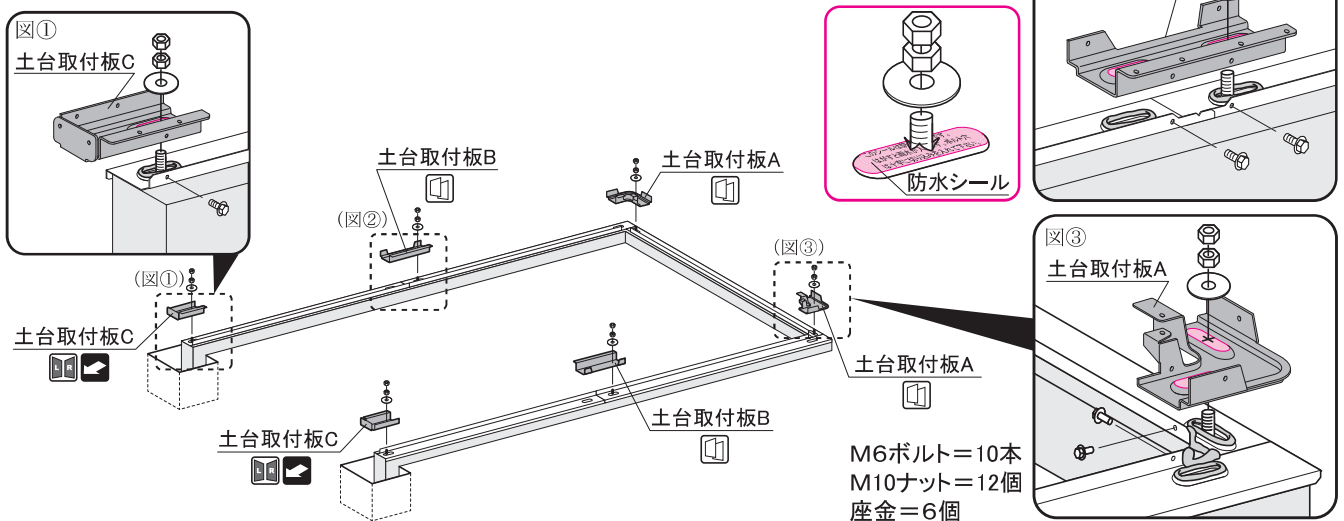
※内部に雨水が浸入する恐れがありますので、必ずコーキングをしてください。コーキングのノズルは、2本目の線でカットしてください。(φ8程度)



3. 土台取付板の取付

土台取付板A・B・Cの防水シールに十字の切り込みを入れアンカーボルトを通します。土台水切板にM6ボルトで取り付け、M10ナットと座金でアンカーボルトに固定します。

※土台取付板の防水シールは、絶対にはがさないでください。

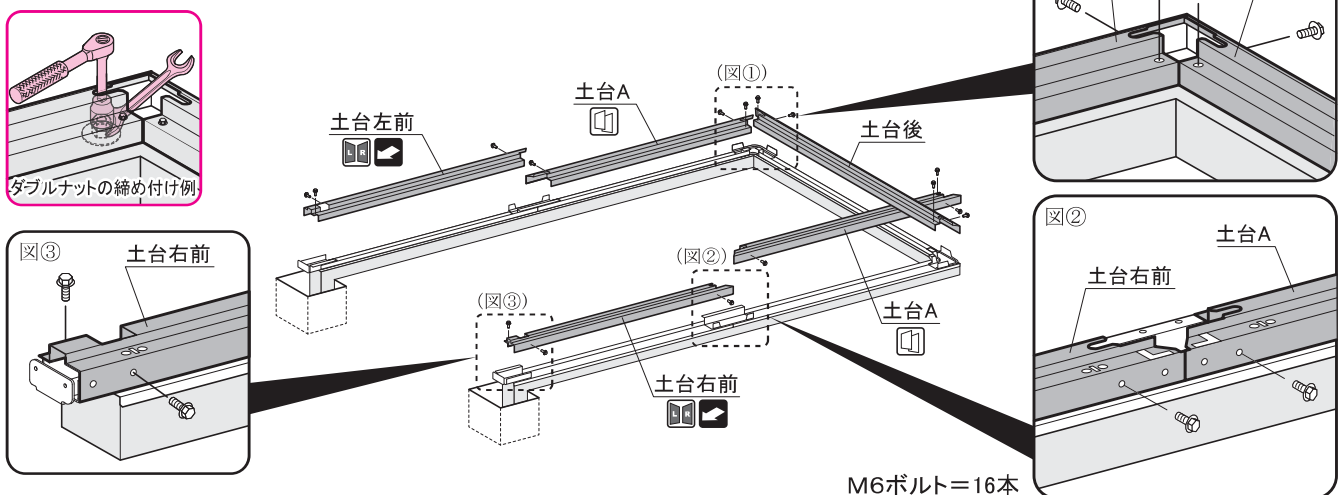


4. 土台の取付

土台A、土台後、土台左右前を土台取付板にかぶせ、M6ボルトで取り付けます。

※土台Aと土台後は同形状です。部材印を確認して組み立てをしてください。

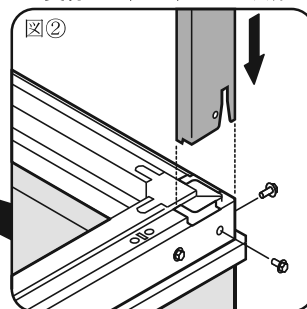
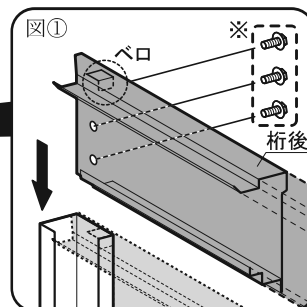
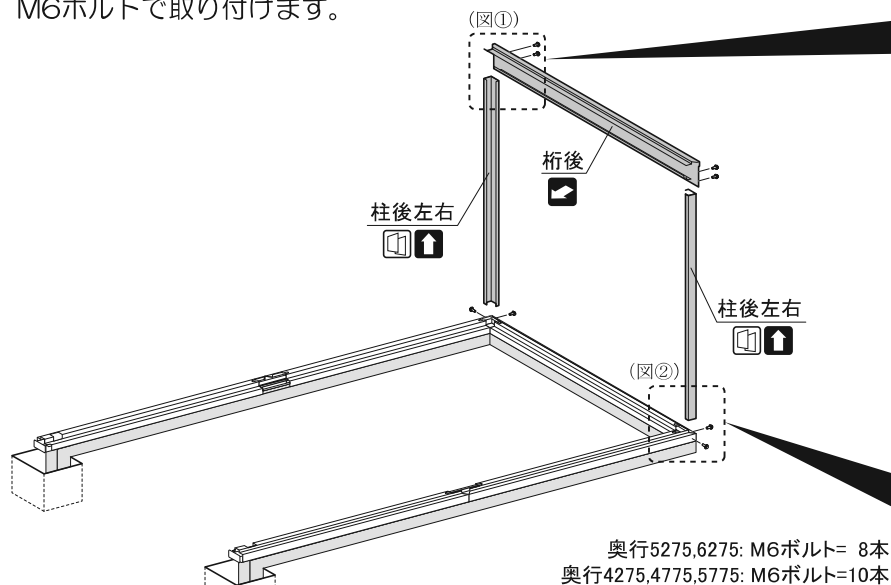
※アンカーボルトはダブルナット(ナット2つ)によるゆるみ止めを確実に行ってください。



左右の向きに注意してください。
 左右共通の部材です。
 上下の向きに注意してください。
 前後の向きに注意してください。

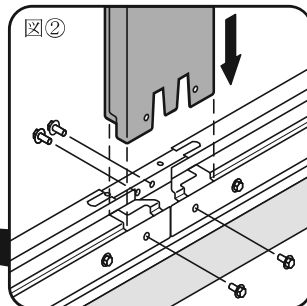
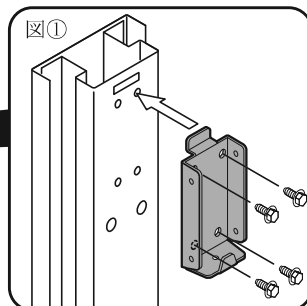
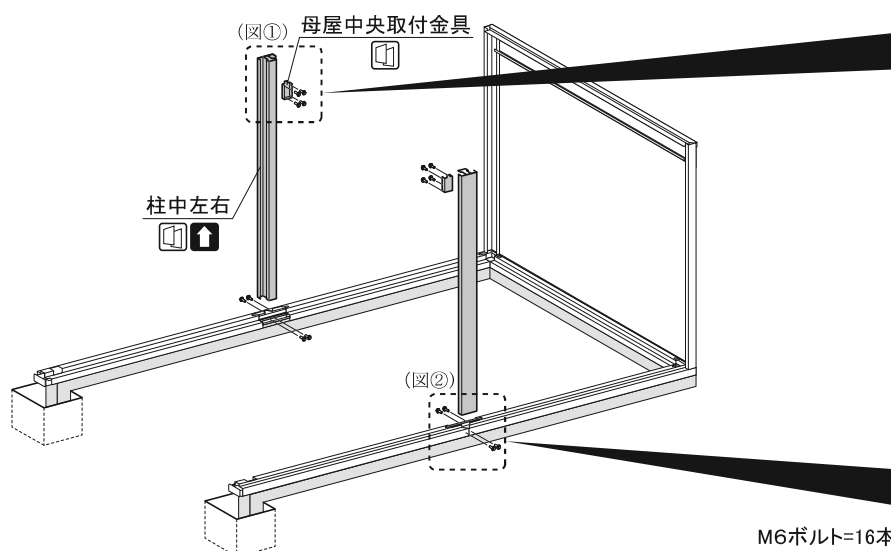
5. 柱後左右・桁後の取付

柱後左右を土台後部に立て、M6ボルトで取り付けます。次に桁後のペロを柱後に引っ掛け、M6ボルトで取り付けます。



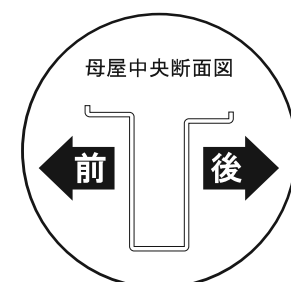
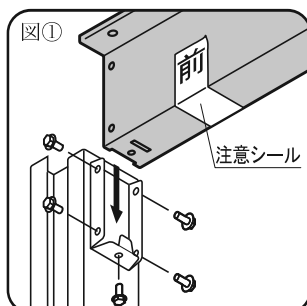
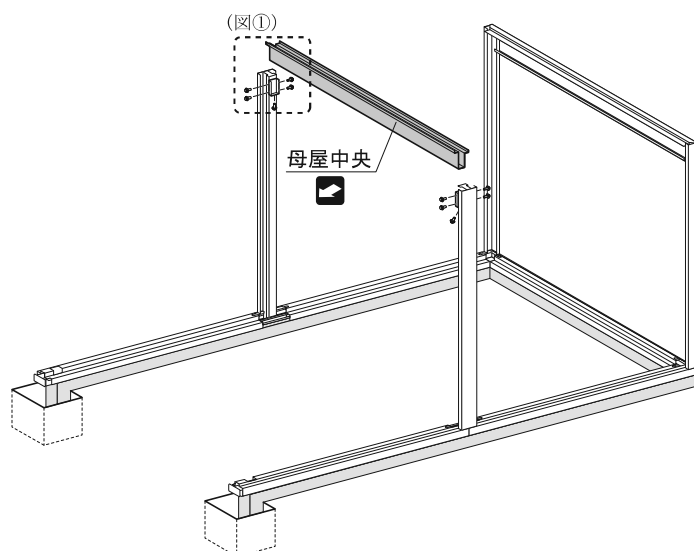
6. 柱中左右の取付

柱中左右は母屋中央取付金具をM6ボルトで取り付けてから、土台に立てM6ボルトで取り付けます。



7. 母屋中央の取付

母屋中央を、母屋中央取付金具にM6ボルトで取り付けます。
※母屋中央の前後を間違えると、雨漏り等の原因になります。

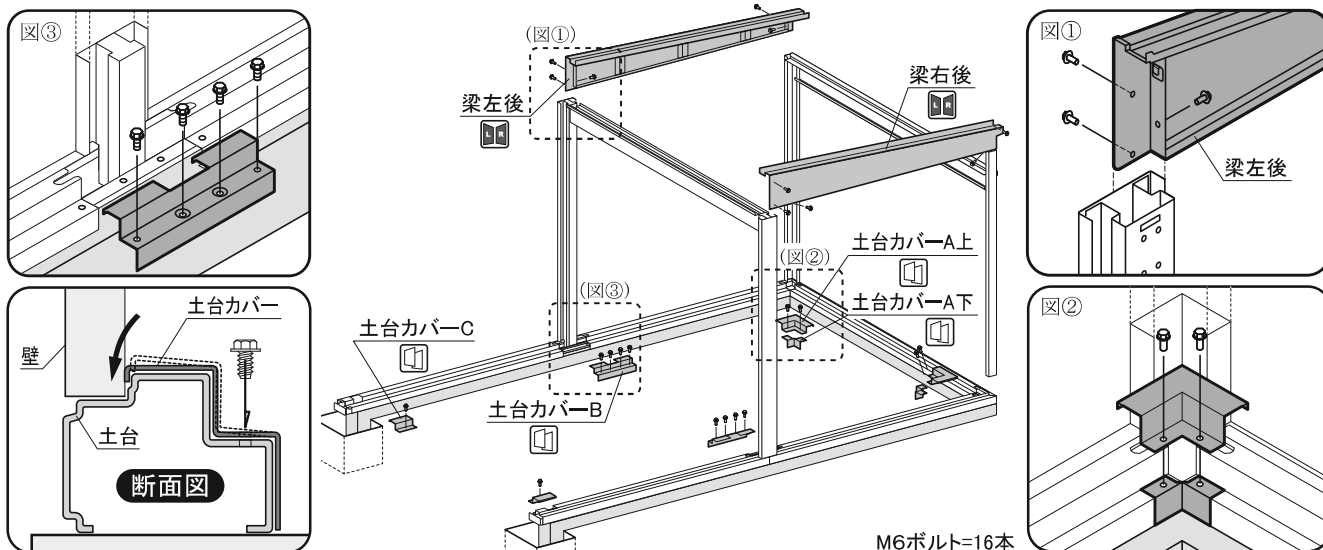


M6ボルト=10本

左右の向きに注意してください。
 左右共通の部材です。
 上下の向きに注意してください。
 前後の向きに注意してください。

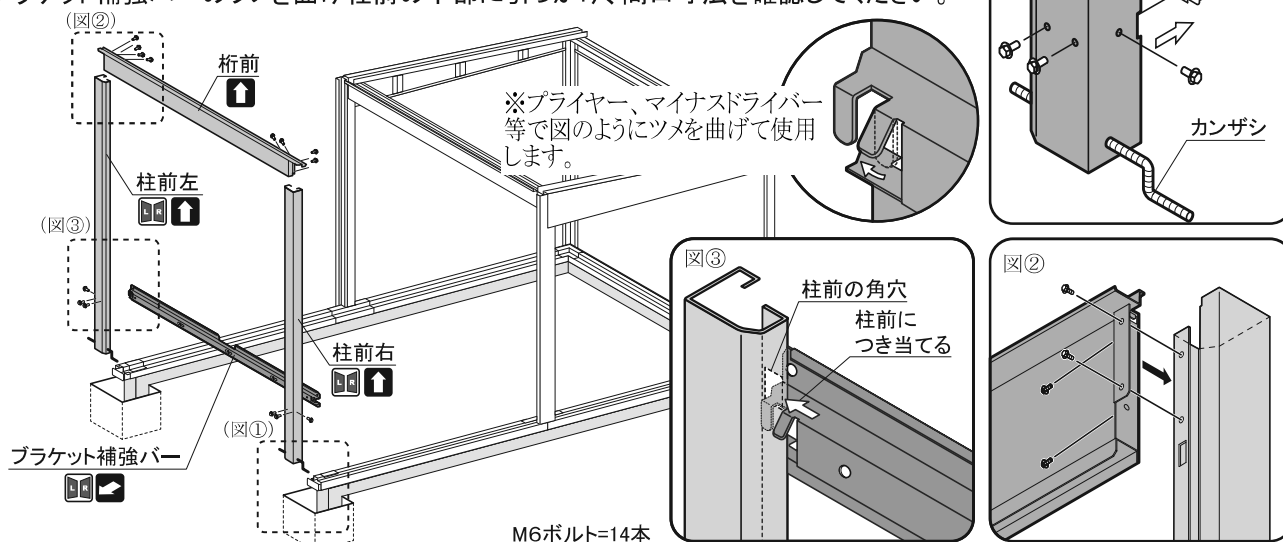
8. 梁左右後・土台カバーの取付

梁左後・梁右後のペロを柱に引っ掛け、M6ボルトで取り付けます。
 次に土台カバーをかぶせる部分に取り付いているM6ボルトをはずし、土台カバーA上・下をコーナー部、土台カバーBを柱中部、土台カバーCを柱前部にM6ボルトで取り付けます。



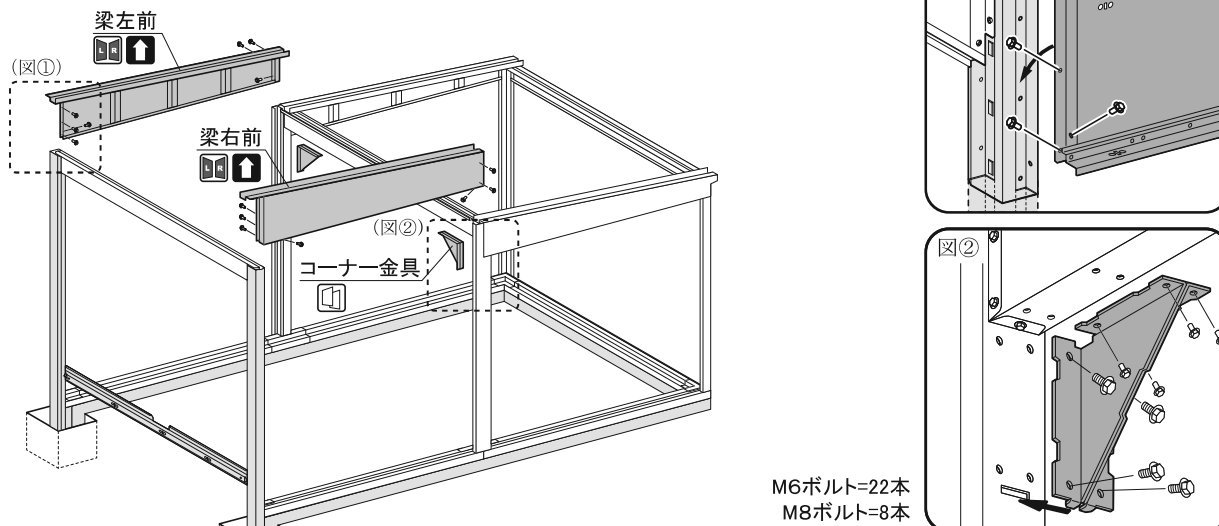
9. 柱前左右・桁前・ブラケット補強バーの取付

柱前左・柱前右にカンザシを入れ、土台左右前に立てM6ボルトで取り付けます。
 次に桁前のペロを柱前に引っ掛け、M6ボルトで取り付けます。
 ※ブラケット補強バーのツメを曲げ柱前の下部に引っ掛け、間口寸法を確認してください。



10. 梁左右前・コーナー金具の取付

梁左前・梁右前のペロを柱に引っ掛け、M6ボルトで取り付けます。次にコーナー金具を柱中とはM8ボルトで、母屋中央とはM6ボルトで取り付けます。



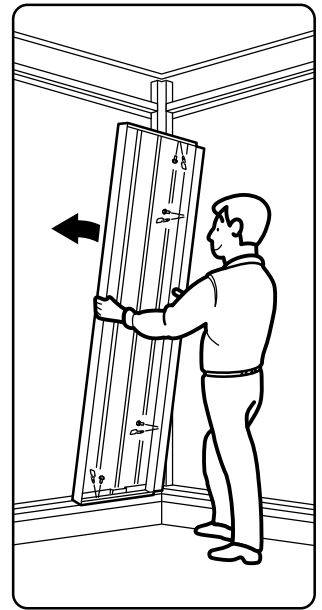
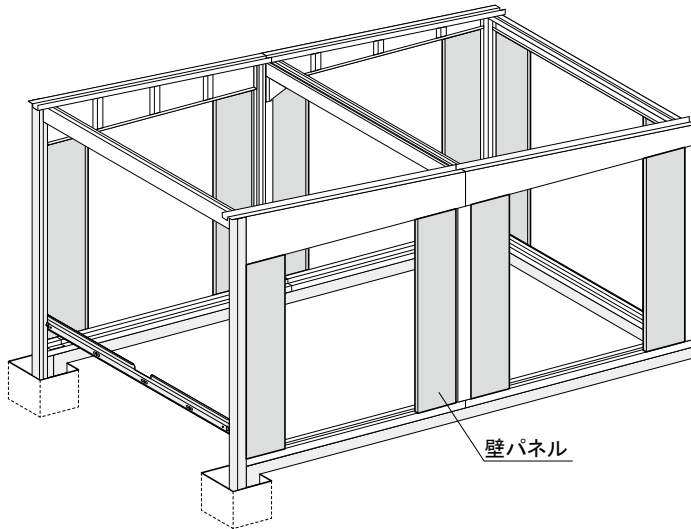
11. 壁パネルの取付

柱の建ちを調整してから壁パネルの取り付けを開始してください。

下げ振りをういて、柱の傾きが5mm以内になるように必ず寸法の確認をしてください。

壁パネルを下図のように内側から各柱にボルトとネジ板で取り付けます。(ゆがみや倒れの防止になります。)

※下図の壁パネルの位置に別売の壁面扉等が付く場合は、壁の取付は不要です。



●壁パネルの組合せ図

壁パネルの組立順が違いますと、雨もりがする等の原因となります。支柱NNは、縦方向を壁パネルと共締めし、桁後・梁とはM6ボルトとネジ板Cで取り付けます。

※ 部以外の壁パネルは、「15.鼻隠し前後の取付」(P.10)で取り付けてください。

※別売の壁面扉等は、各々の組立説明書を参照して取り付けてください。

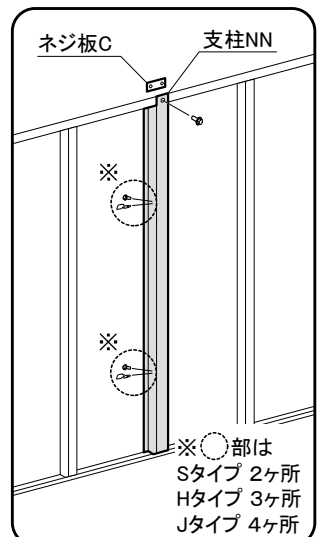
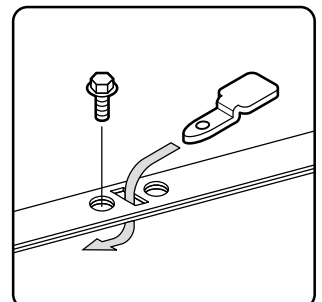
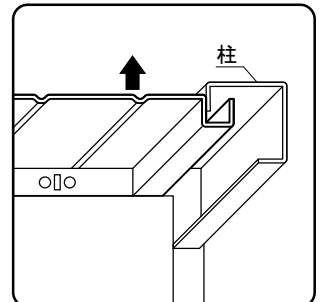
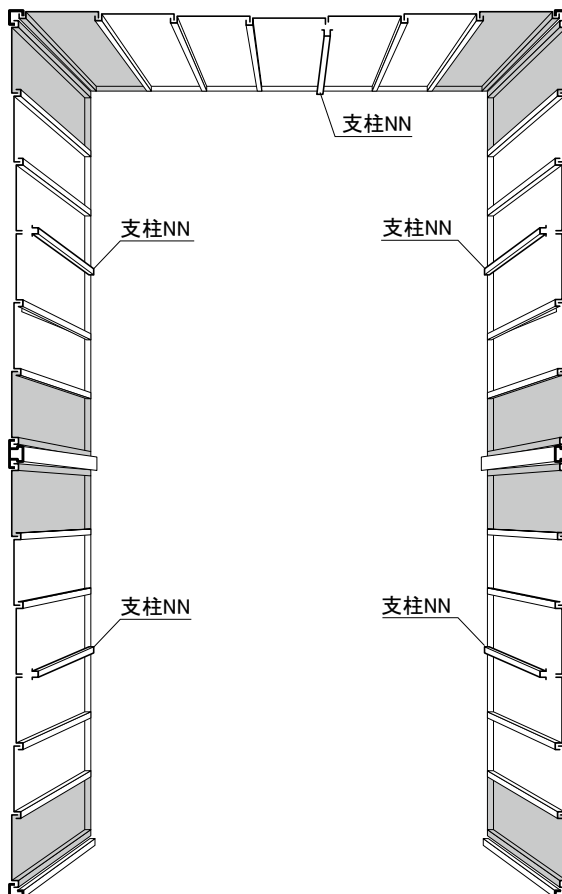
壁4枚の場合 — 左から2枚 → ← 中から2枚 —

壁5枚の場合 — 左から3枚 → ← 中から2枚 —

壁6枚の場合 — 左から3枚 → ← 中から3枚 —

壁7枚の場合 — 左から4枚 → ← 中から3枚 —

壁3枚の場合 — 後から1枚 → ← 中から2枚 —
 壁4枚の場合 — 後から2枚 → ← 中から2枚 —
 壁5枚の場合 — 後から2枚 → ← 中から3枚 —
 壁6枚の場合 — 後から3枚 → ← 中から3枚 —
 壁6枚の場合 — 中から3枚 → → 前から3枚 — 壁6枚の場合

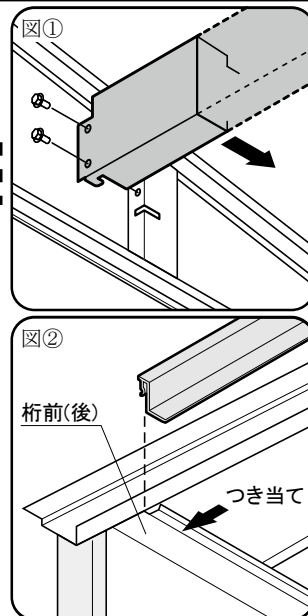
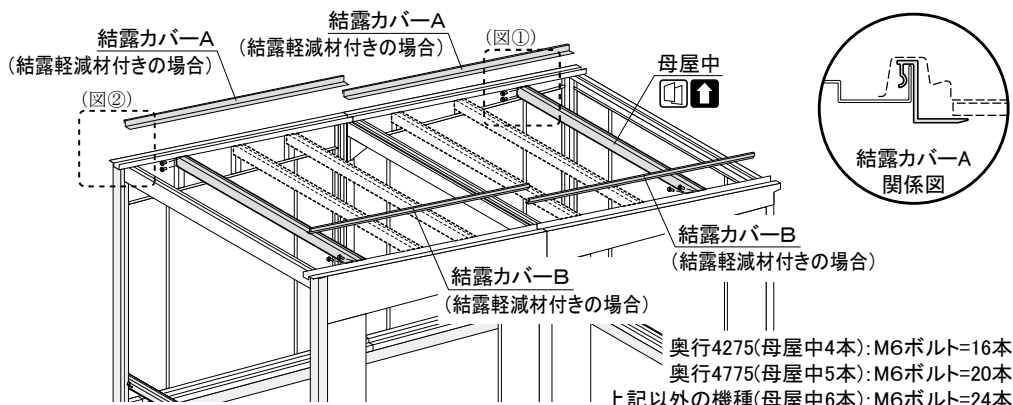


12. 母屋中の取付

母屋中を梁左右に渡し、M6ボルトで取り付けます。
(点線部の母屋中は、屋根パネル取付後にセットすると組立が容易になります)

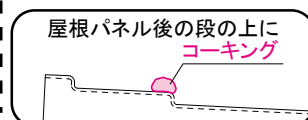
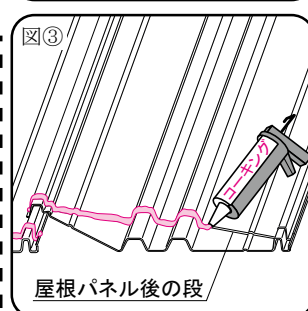
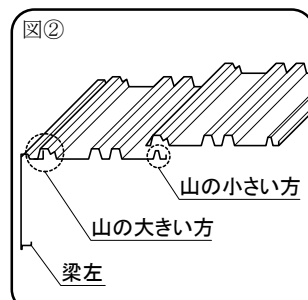
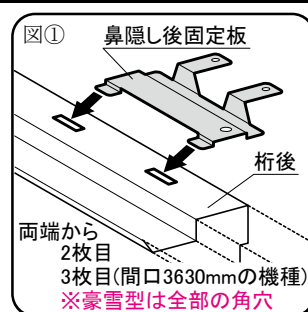
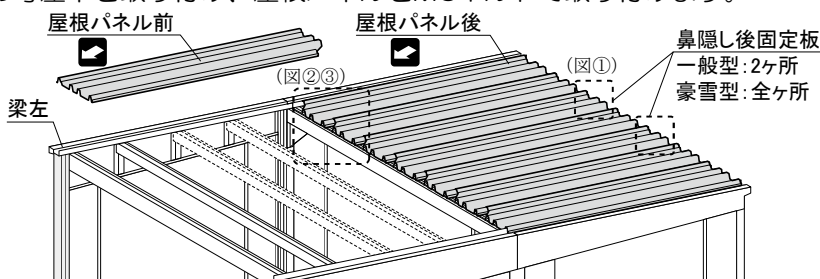
- (※結露軽減材付きの場合) 結露カバーA・Bの取付 -

結露カバーA(ひげの長い方)を梁左に、結露カバーB(ひげの短い方)を梁右にはめ込みます。



13. 屋根パネルの取付

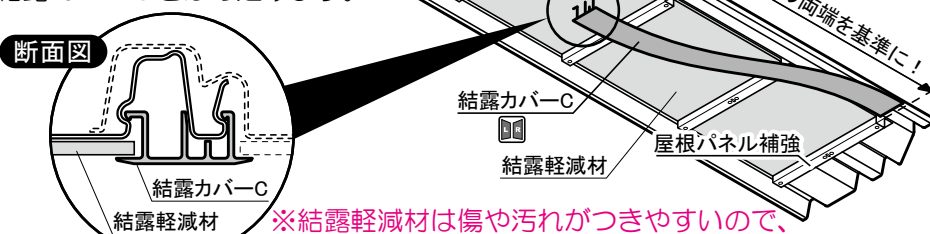
- ①桁後の両端から屋根2枚目(間口3630mmの機種は3枚目)の角穴に、鼻隠し後固定板を2個差し込みます。(図①)
※豪雪型の場合は、全部の角穴に差し込みます。(追加の鼻隠し後固定板は別梱)
- ②屋根パネル後を梁左から順にのせ(図②)、桁後に引き寄せます。
※結露軽減材付きの場合は、屋根パネルに結露カバーCを取り付けてからのせます。
※結露軽減材ナシの場合は、屋根パネルをのせた後、屋根パッキンを取り付けます。
- ③屋根パネル後をM6ボルトで桁後・母屋中央に取り付け、**屋根パネル後の段の上にコーキングを打ちます。**(図③)
- ④屋根パネル前を梁左から順にのせ(図②)、桁前に引き寄せます。
M6ボルトで桁前・母屋中央に取り付けます。
- ⑤残りの母屋中を取り付け、屋根パネルをM6ボルトで取り付けます。



- (※結露軽減材付きの場合)

結露カバーCの取付

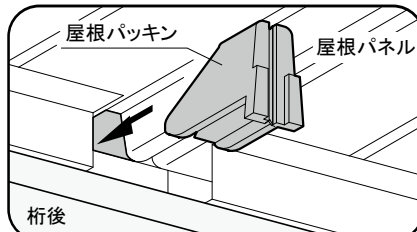
屋根パネルの山の小さい方に、結露カバーCをはめ込みます。



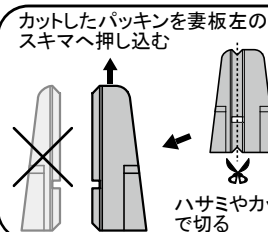
- (※結露軽減材ナシの場合)

屋根パッキンの取付 (屋根パネルを固定する前に取り付けてください)

ホコリの侵入を防ぐため、屋根パッキンを桁後と屋根パネルのつなぎ目に押し込みます。(妻板左のスキマに入らない場合はカットしてください)
※妻板右側は、スキマが小さいので不要です。



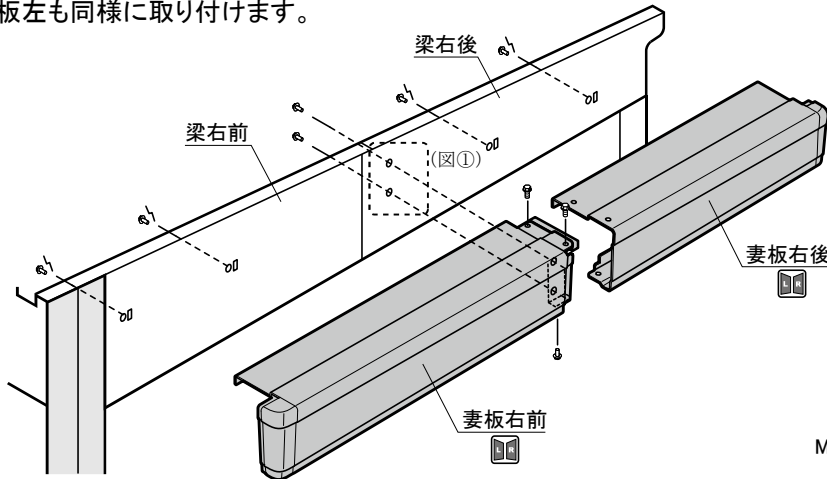
※妻板左のスキマに入らない場合



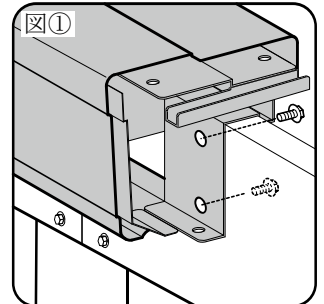
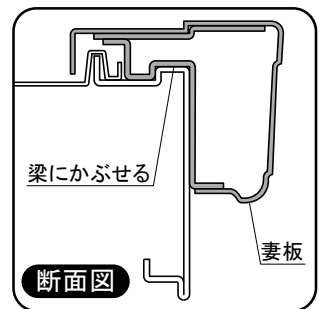
機種	数	機種	数
間口2130	4個	間口3130	6個
間口2630	5個	間口3630	7個

14. 妻板の取付

妻板右前を梁右前にかぶせ、庫内側からM6ボルトとネジ板で固定します。次に妻板右後を梁右後にかぶせ妻板前とM6ボルトで取り付け、庫内側からM6ボルトとネジ板で固定します。
※妻板左も同様に取付けます。

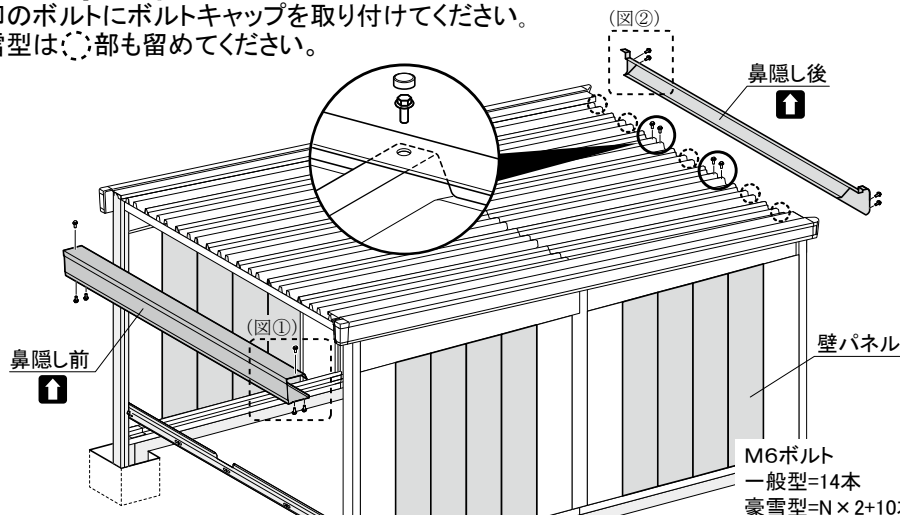


M6ボルト=18本
ネジ板= 8枚

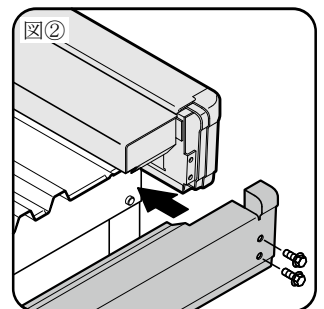
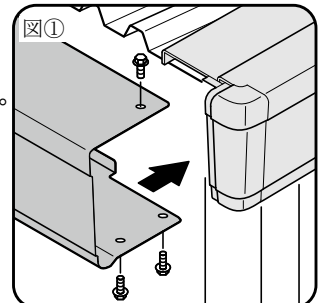


15. 鼻隠し前後の取付

鼻隠し前をM6ボルトで取付けます。鼻隠し後を下図のように鼻隠し後固定板にM6ボルトで取付け、後面のM6ボルトを取付けます。次に「●壁パネルの組合せ図」(P.8)を参考に壁パネルと支柱NNをすべて取付けます。
※○印のボルトにボルトキャップを取付けてください。
※豪雪型は○部も留めてください。



M6ボルト
一般型=14本
豪雪型=N×2+10本



16. シャッターの取付

柱の建ちを調整してから、シャッターの取付けを開始してください。柱の傾きが5mm以内になるように、下げ振りを用いて必ず寸法の確認をしてください。

①ブラケット補強バーをはずします。

《間口2130mm、2630mm、3130mmタイプ》

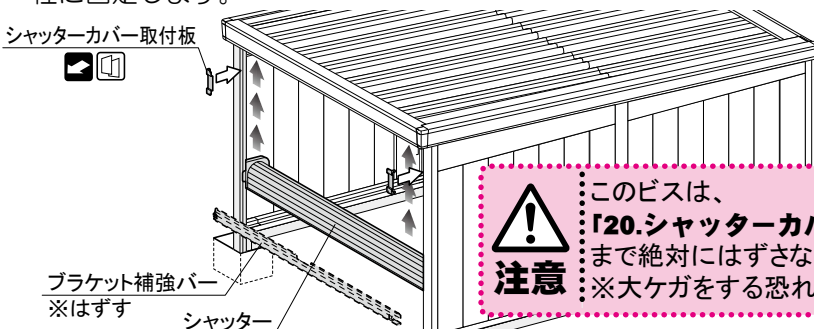
②シャッターブラケットのツメを柱前の角穴に入れ、左右交互に持ち上げ、1番上の角穴にツメを入れてください。

※安全のため、ツメが角穴に入ったのを確認しながら徐々に持ち上げてください。

《間口3630mm タイプ》

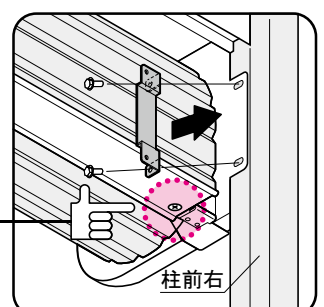
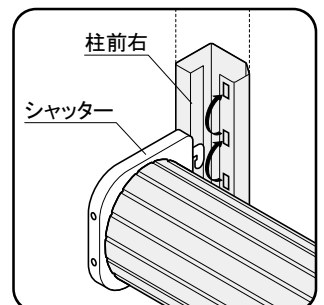
②シャッターが分割されているため、シャッター梱包内の組立説明書の指示にしたがって組立を行い③の説明に進んでください。

③シャッターカバー取付板を垂直になるようにM6ボルトでブラケットと共締めし柱に固定します。



注意 このビスは、「20.シャッターカバー取付」まで絶対にはずさないでください。
※大ケガをする恐れがあります。

M6ボルト=4本

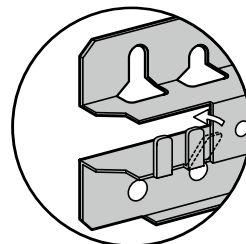
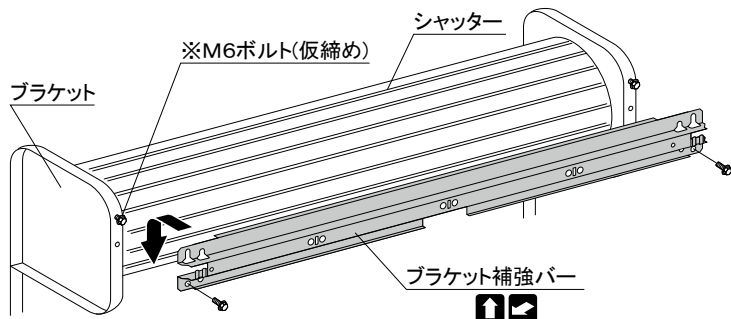


17. ブラケット補強バーの取付

※耐風シャッターを取り付ける場合は「19.シャッターレールの取付」(P.12)でブラケット補強バーを使用するため、ここで取付を行わず「18.胴縁の取付」へ進んでください。

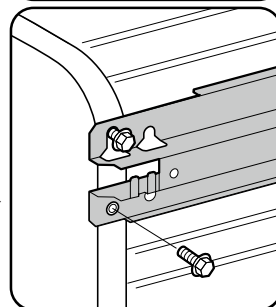
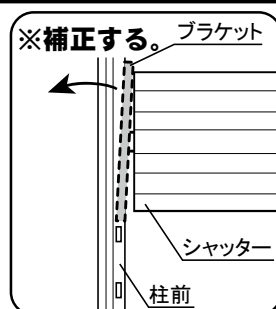
- ①ブラケットの1番上のネジ穴にボルトを仮締めし、ブラケット補強バーをそのボルトに引っかけます。
- ②ブラケットのゆがみを補正し、下のボルトを取り付けます。
仮締めしたボルトを本締めします。

※ブラケットがゆがんだままですと、異音や故障の原因になります。



※シャッターケースを取り付ける場合は、ブラケット補強バーのツメをもどしてシャッターケースと干渉しないようにしてください。

M6ボルト=4本



18. 胴縁の取付 《Jタイプのみ》

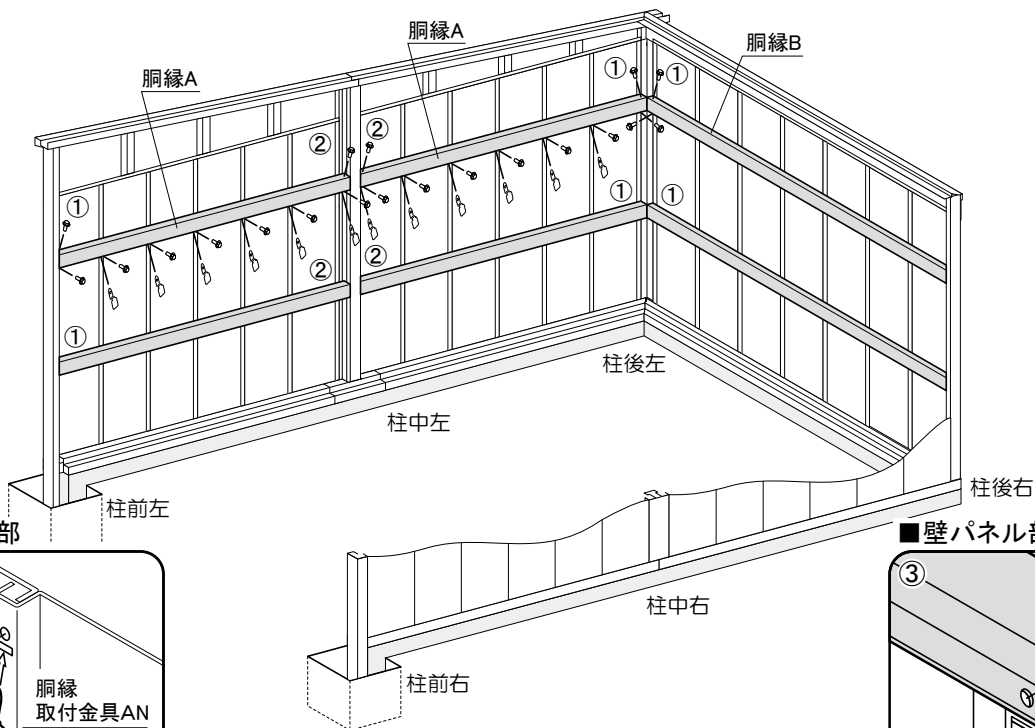
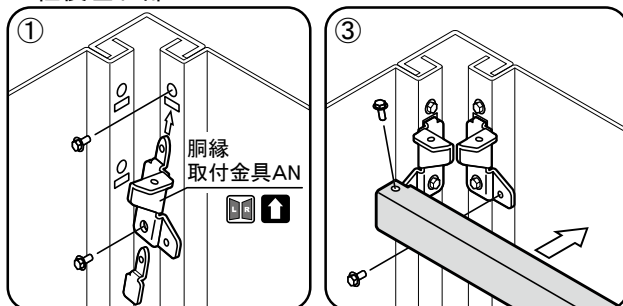
- ①胴縁取付金具ANを柱後・柱前左右の壁パネルにM6ボルトとネジ板で取り付けます。
- ②胴縁取付金具Bを柱中左右の壁パネルにM6ボルトで取り付けます。
- ③壁パネルの枚数に合った長さの胴縁Aを胴縁取付金具ANとはM6ボルトで、胴縁取付金具B・壁パネルとはM6ボルトとネジ板で取り付けます

※別売の壁面扉等は、各々の組立説明書を参照して取り付けてください。

■柱中左右・柱後中部



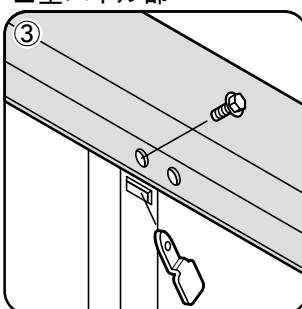
■柱後左右部



■柱前左右部



■壁パネル部



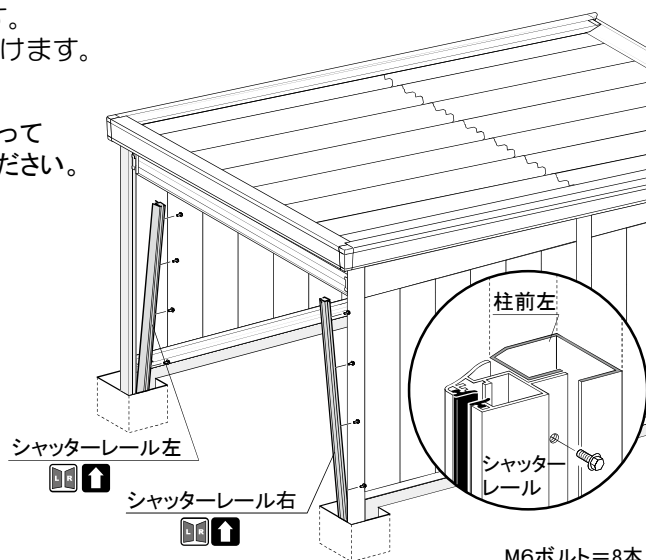
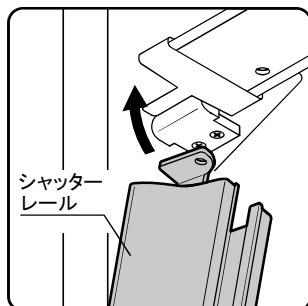
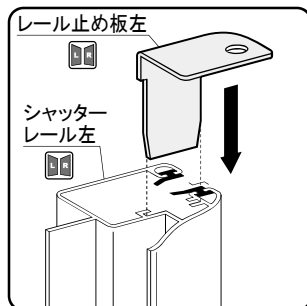
左右の向きに注意してください。 左右共通の部材です。 上下の向きに注意してください。 前後の向きに注意してください。

19. シャッターレール・レール止め板の取付

- ①シャッターレール上部にレール止め板をたたき込みます。
- ②シャッターレールを柱前に内側からM6ボルトで取り付けます。

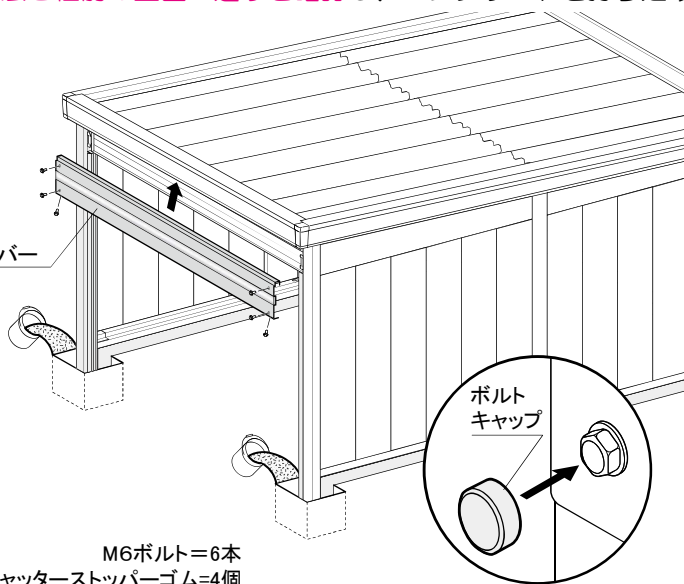
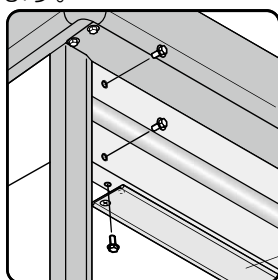
《耐風シャッターを取り付ける場合》

耐風シャッターレール梱包内の組立説明書の指示にしたがってレール化粧板と耐風シャッターレールの組み立てを行ってください。



20. シャッターカバー・ボルトキャップの取付・柱の埋め込み

シャッターカバーをM6ボルトで取り付け、シャッターの水切りスラットを止めているビスをはずし、シャッターストッパーゴムを取り付けます。次に外部のM6ボルトの頭にボルトキャップを取り付けます。シャッター梱包内のチェックリストを用いて、間口寸法と柱前の垂直・通りを確認し、コンクリートを打ち込みます。

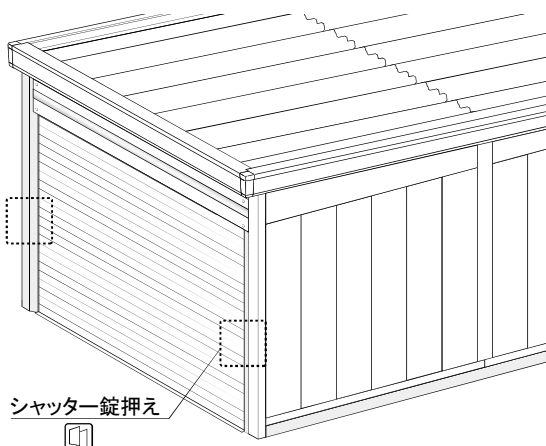
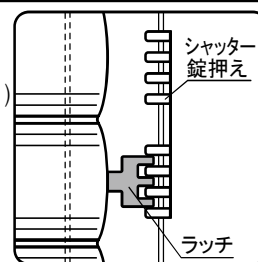


21. シャッター錠押えの取付・保管ケースの貼付【完成】

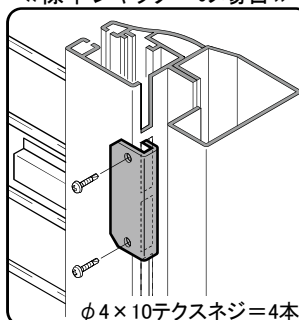
庫内から施錠し、シャッター錠押えをシャッターレールの角穴からラッチにかませ、テクスネジで取り付けます。(リモコンシャッターの場合は錠押えの取り付けは不要です。)

※土間コンクリートを打つことによって、施錠高さ(ラッチ位置)が上がる可能性があるため、シャッター錠押えの下部にラッチをかませてください。

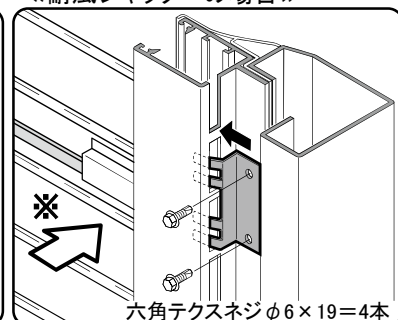
最後に保証書・取扱説明書・組立説明書を保管ケースに入れて、庫内シャッター横の壁パネル面(高さ1.5mくらい)に貼り付けてください。



《標準シャッターの場合》



《耐風シャッターの場合》

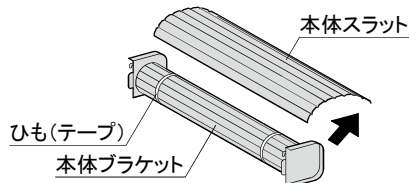


※庫内からシャッタースラットを手で押しながら錠押えを差しこんでください。

イナバガレージ シャッター組立説明書 CS・SM色 (三和シャッター製)

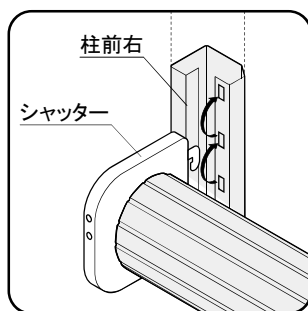
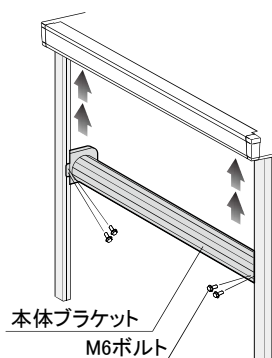
- ※鋼材切断端部が露出している部品があります。
組立時は必ず手袋等の保護具を着用してください。
※手動シャッターの場合、本体ブラケットに巻いてある「本体スラット」をはずしてから組み立てをはめてください。

※本体ブラケットのひも(テープ)は1.本体ブラケットの取付の後に外すと作業しやすくなります。



1. 本体ブラケットの取付

本体ブラケットのツメを柱前の角穴に入れ、左右交互に持ち上げます。
※安全のため、ツメが角穴に入ったのを確認しながら徐々に持ち上げてください。
ツメが1番上の角穴に入ったら、M6ボルトでブラケットと共締めし、柱に固定します。

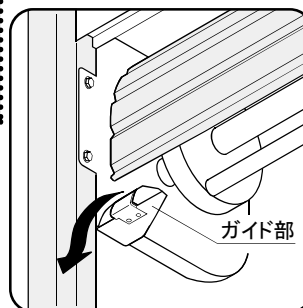
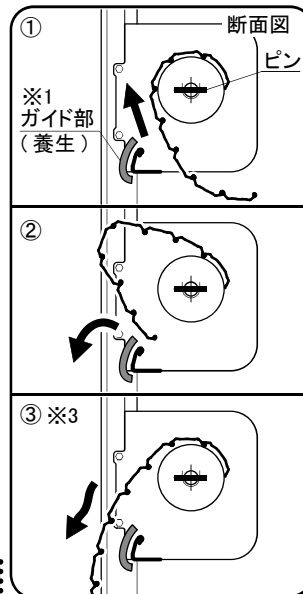
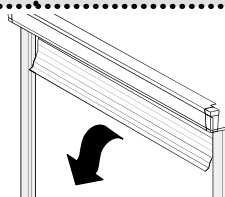


2. スラットの取り出し

本体ブラケットに巻きついているスラットを、屋外側に取り出します。

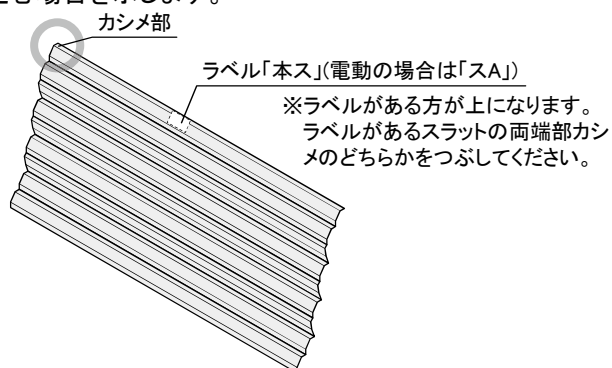
- ※1 ガイド部とスラットが接触して傷付かないようガイド部を養生してください。
※2 耐風シャッターの場合、スラット端部にスリットが入っており、変形しやすくなっているため、取り扱いには十分注意してください。
※3 ③の時にピンが庫内側から見えることを確認してください。この時にピンが見えないとシャッターの組立ができなくなります。

警告
この時、ピンは絶対にはずさないでください。
※スラットが激しく回転して、大ケガをする恐れがあります。



3. 本体スラットの取付

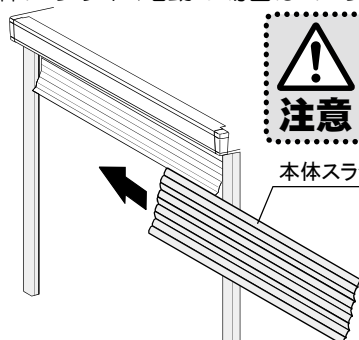
本体スラット(電動の場合はスラット梱包内の「スラットA」)のラベルの付いている方のスラット両端部カシメのうち、片方を専用のヤットコ又はプライヤー等でつぶします。
※スラットを差し込む方向に合わせ、どちらか一方のカシメをつぶしてください。本図はガレージに向かって右側から差し込む場合を示します。



●CS・SM色の場合 カシメ部(円筒状に出ている部分)をつぶす

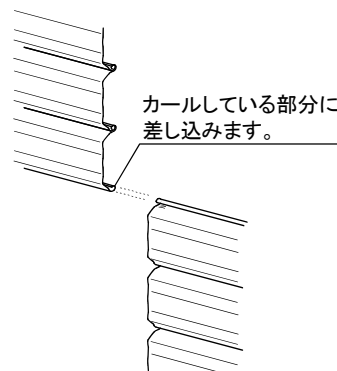


次に、本体スラット(電動の場合は「スラットA」)を横から差し込みます。



注意
この時、柱とスラットが接触して傷付かないように養生してください。

本体スラット(電動の場合はスラットA)



差し込み終わったら、つぶしたカシメを元に戻し(カシメなおし)ます。シャッターが左右にずれないか確認してください。

※カシメを忘れると、シャッターの使用中にスラットが片寄り、開閉に支障が出る等の不具合の原因になります。

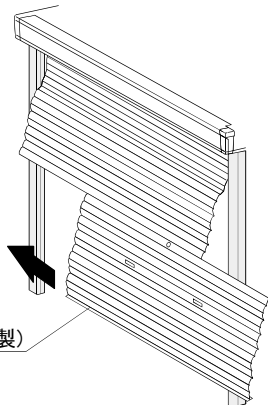
裏面につづく

4. スラットA・B・Cの取付

残りのスラットも同様に取付けます。手動の場合はA・B・C、電動の場合はB・Cの順に取り付けます。各スラットの上側にはそれぞれ「スA」、「スB」のラベルが貼り付けてあります。

※最後のスラットCには、ラベルはありません。水切りがある方が下側となります。

水切り(アルミ製)



5. シャッターカバーの取付

ブラケットを止めているボルトを一旦はずし、シャッターカバー取付板が垂直になるようにM6ボルトでブラケットと共締めした後、シャッターカバーを取り付けます。

シャッターカバー取付板

シャッターカバー



注意

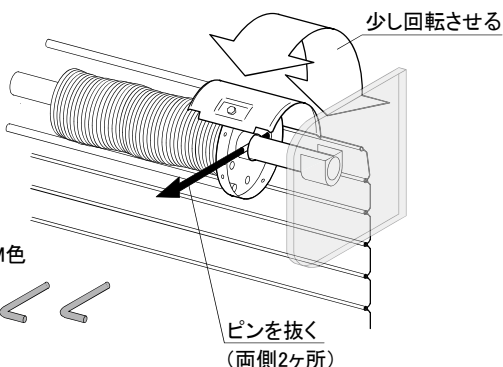
シャッターカバーを付けないと、スラット巻上げ時にアテとなるものがない為危険です。

6. ピンの取りはずし

CS・SM色の場合は左右両側2ヶ所の黄色の「△警告」シールをはがし、その下にあるピンを抜きます。

ピンは、L字形状です。

※ピンが抜けにくい場合は、スラットを少し回転させながらピンがゆるむポイントを探ってください。



●CS・SM色のピン

ピンを抜く
(両側2ヶ所)



注意

その他の割りピン等は絶対にはずさないでください。
※スラットが横ずれして開閉できなくなることがあります。

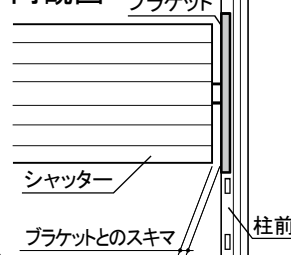
7. シャッターの巻き上げ

巻取部を手で回しながらゆっくりとシャッターを巻上げます。この時、ガイド部にスラットが引っかかるので、内側から押しながら巻き上げてください。

※巻き上げるに従いバネによる巻上げが強くなりますので、かならず二人以上で作業してください。

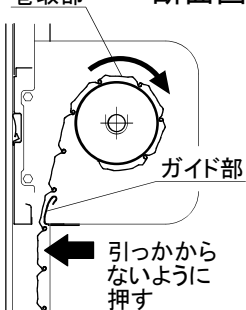
※シャッターが片寄らないように(シャッターとブラケットとのスキマが左右均一になるように)木片等で調整しながら巻き上げてください。

内観図



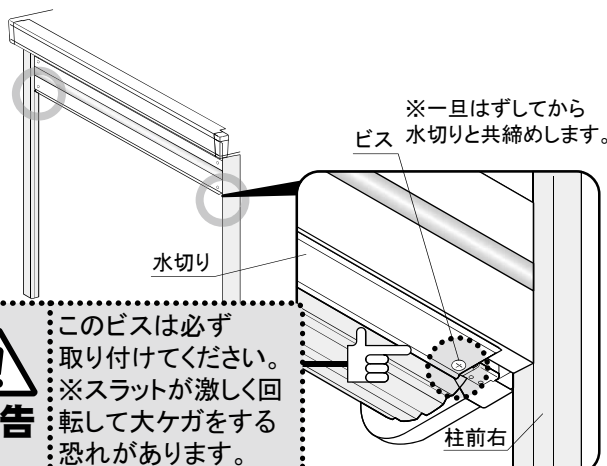
巻取部

断面図



8. シャッターの固定

ブラケットに止めてあるビスを一旦はずし、水切りと共に再度取付けます。※ビスは両端部にあります。必ず両側のビスを固定しなおしてください。



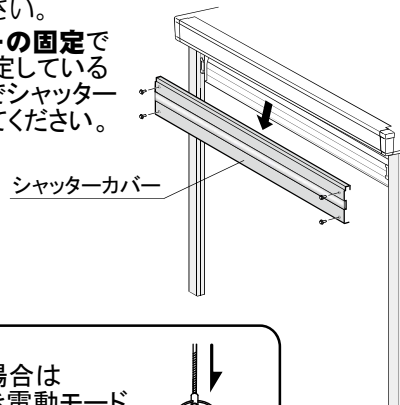
警告

このビスは必ず取り付けてください。
※スラットが激しく回転して大ケガをする恐れがあります。

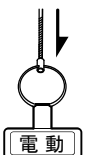
9. シャッターカバーの取り外し

組立順序の関係上、一旦シャッターカバーを取り外します。その後、本体組立説明書に従って、本体の組み立てを続けてください。

※必ず8.シャッターの固定でビスが水切りを固定していることを確認した上でシャッターカバーを取り外してください。



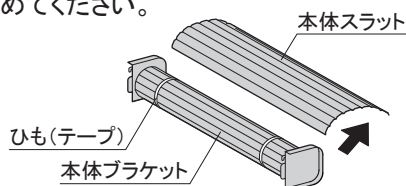
電動シャッターの場合は電動スイッチを引き電動モードに切り替えてからリミット設定へお進みください。



イナバガレージ シャッター組立説明書 UG・SW・SG色 (文化シャッター製)

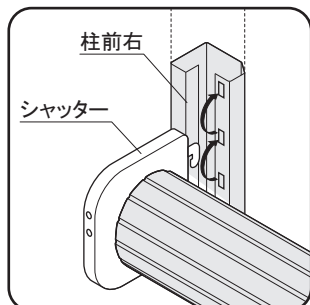
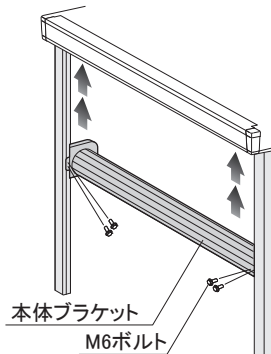
※鋼材切断端部が露出している部品があります。
組立時は必ず手袋等の保護具を着用してください。
※手動シャッター(高さSタイプを除く)の場合、本体
ブラケットに巻いてある「本体スラット」ははずして
から組み立てをはじめてください。

※本体ブラケットのひも
(テープ)は1.本体ブラ
ケットの取付の後に
外すと作業しやすくな
ります。



1. 本体ブラケットの取付

本体ブラケットのツメを柱前の角穴に入れ、左右交互に持ち上げます。
※安全のため、ツメが角穴に入ったのを確認しながら徐々に持ち上げてください。
ツメが1番上の角穴に入ったら、M6ボルトでブラケットと共締めし、柱に固定します。



2. スラットの取り出し

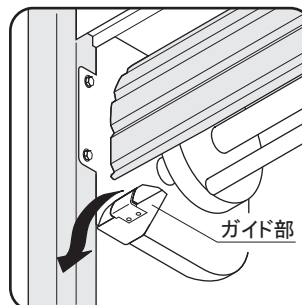
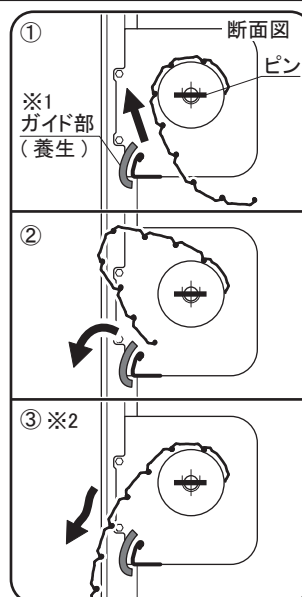
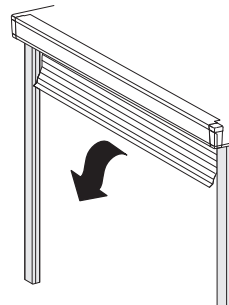
本体ブラケットに巻きついているスラットを、屋外側に取り出します。
※1ガイド部とスラットが接触して傷付かないようガイド部を養生してください。



警告

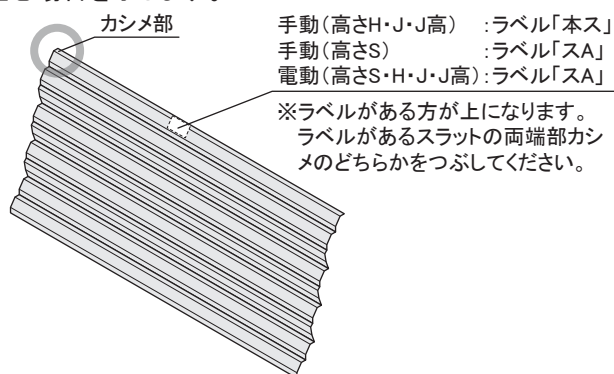
この時、ピンは絶対にはずさないでください。
※スラットが激しく回転して、大ケガをする恐れがあります。

※2③の時にピンが庫内側から見えることを確認してください。この時にピンが見えないとシャッターの組立ができなくなります。

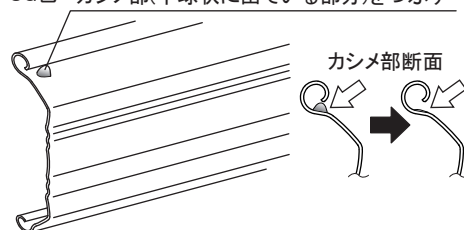


3. 本体スラットの取付

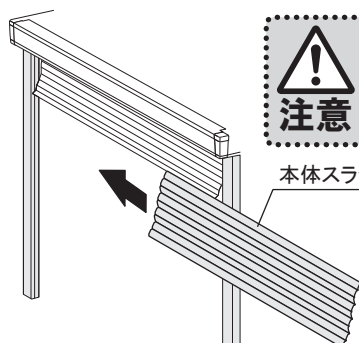
「本体スラット」または「スラットA」のラベルの付いている方のスラット両端部カシメのうち、片方を専用のヤットコ又はプライヤー等でつぶします。
※スラットを差し込む方向に合わせ、どちらか一方のカシメをつぶしてください。本図はガレージに向かって右側から差し込む場合を示します。



●UG・SW・SG色 カシメ部(半球状に出ている部分)をつぶすの場合



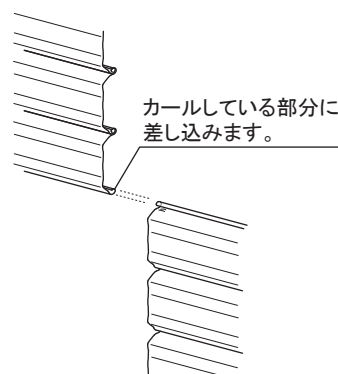
次に、本体スラット(スラットA)を横から差し込みます。



注意

この時、柱とスラットが接触して傷付かないように養生してください。

本体スラット(スラットA)



差し込み終わったら、つぶしたカシメを元に戻し(カシメなおし)ます。シャッターが左右にずれないか確認してください。

※カシメを忘れると、シャッターの使用中にスラットが片寄り、開閉に支障が出る等の不具合の原因になります。

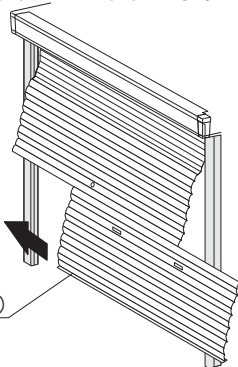
裏面につづく

4. スラットA・B・Cの取付

残りのスラットも同様に取付けます。
手動(高さH・Jタイプ)の場合はA・B・C、
手動(高さSタイプ)と電動の場合はB・C
の順に取り付けます。各スラットの上側にはそれぞれ
「スA」、「スB」のラベルが貼り付けてあります。

※最後のスラットCには、
ラベルはありません。
水切りがある方が下側
となります。

水切り(アルミ製)

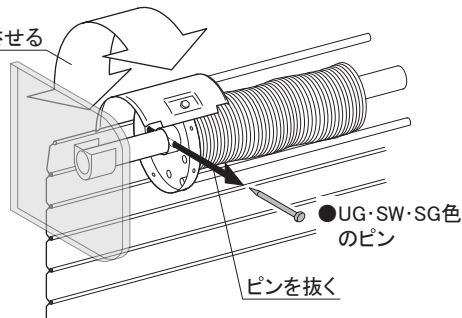


6. ピンの取りはずし

UG・SW・SG色の場合は内観左側1ヶ所の「△警告」
シールをはがし、その下にあるピンを抜きます。
ピンは釘形状です。

※ピンが抜けにくい場合は、スラットを少し回転させながら
ピンがゆるむポイントを探ってください。

少し回転させる



ピンを抜く

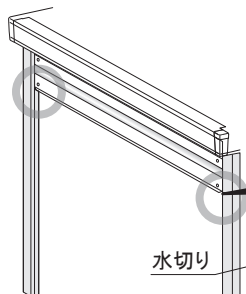
※電動シャッターの場合は、
(別紙)ワイヤー固定金具組立説明書の指示に従って、
手動に切り替えてから組立をしてください。



その他の割りピン等は絶対に
はずさないでください。
※スラットが横ずれして開閉で
きなくなることがあります。

8. シャッターの固定

ブラケットに止めてあるビスを一旦はずし、
水切りと共に再度取付けます。
※ビスは両端部にあります。必ず両側のビスを固定し
なおしてください。



※一旦はずしてから
ビス 水切りと共に共締めします。

水切り

柱前右



このビスは必ず
取り付けてください。
※スラットが激しく回
転して大ケガをする
恐れがあります。

5. シャッターカバーの取付

ブラケットを止めているボルトを一旦はずし、シャッター
カバー取付板が垂直になるようにM6ボルトでブラケ
ットと共締めした後、シャッターカバーを取り付けます。

シャッターカバー取付板

シャッターカバー



注意

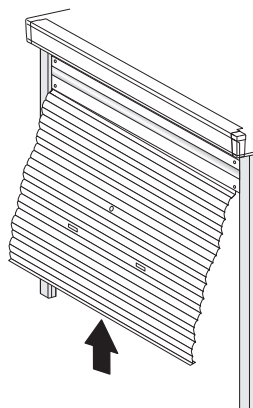
シャッターカバーを付けないと、
スラット巻上げ時にアテとなる
ものがない為危険です。

7. シャッターの巻き上げ

巻取部を手で回しながらゆっくりとシャッターを巻上
げます。この時、ガイド部にスラットが引っかかるの
で、内側から押しながら巻き上げてください。

※巻き上げるに従いバネによ
る巻上げが強くなりますの
で、かならず二人以上で作
業してください。

※シャッターが片寄らないよう
に(シャッターとブラケットと
のスキマが左右均一になる
ように)木片等で調整しなが
ら巻き上げてください。



内観図

ブラケット

シャッター

ブラケットとのスキマ

柱前

巻取部

断面図

ガイド部

引っかから
ないように
押す

9. シャッターカバーの取り外し

組立順序の関係上、一旦シャッターカバーを取り外し
ます。その後、本体組立説明書に従って、本体の組み
立てを続けてください。

※必ず8.シャッターの固定で
ビスが水切りを固定している
ことを確認した上でシャッター
カバーを取り外してください。

シャッターカバー

※電動シャッターの場合

- ・ワイヤー固定金具を取り外し、
本体の組立を行ってください。
- ・電動モードになっていることを
確認し、リミット設定を行なっ
てください。
(電動モードでは手動で
シャッターが動かなくなります。)

電動モード

手動モード

